



日本財団母乳バンク概要資料

2025年度

目次

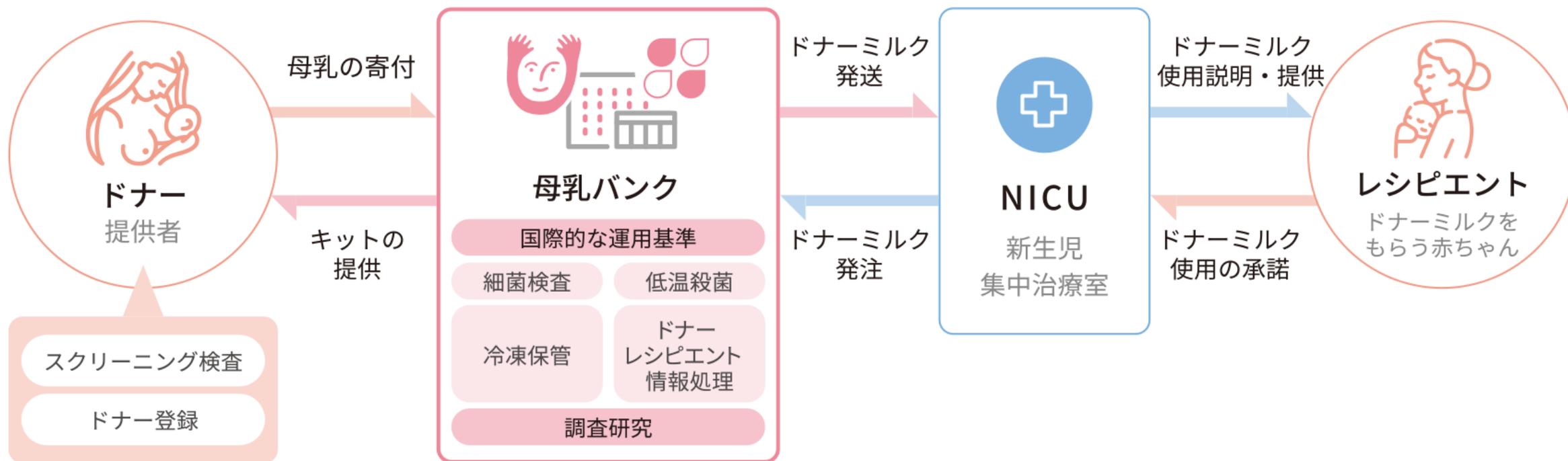


1. 「母乳バンク」とは
2. なぜ母乳バンクが必要なのか
3. 世界の母乳バンクと日本の母乳バンク
4. 主な活動内容と特徴
5. ドナーミルクが赤ちゃんに届くまで
6. 活動実績（2022～2024年）
7. (参考)国内2つの母乳バンクによる年度推移グラフ

「母乳バンク」とは

母乳バンクとは、

- ご自身のお子さんが必要とする以上に母乳が出るドナーよりご寄付いただいた母乳を、
- 適切に低温殺菌処理、細菌検査、冷凍保管し、
- NICU（新生児集中治療室）の要請に応じて「ドナーミルク」として
- 早産・極低出生体重（体重1,500g 未満）の赤ちゃんに提供する仕組みです。



なぜ母乳バンクが必要か？①

小さく生まれた赤ちゃんを、母乳にしかない成分が守る

超低出生体重児のNICU入院中の死亡率9.2%(2015)

→原因：感染症21.3%、壊死性腸炎・消化管穿孔16.2%（死亡率58%）

壊死性腸炎・慢性肺疾患・未熟児網膜症・遅発型敗血症等の罹患リスクが高く、長期的にも将来の認知機能や運動機能への影響がある。

母乳

- 栄養素（タンパク質、脂質等）＋生理活性物質slgA,ラクトフェリン等の免疫物質、ヒトミルクオリゴ糖等、人工乳にはない成分
- 細菌やウイルスに対する感染防御作用、ビフィズス菌増殖作用
- 壊死性腸炎の予防に寄与／生後早期に母乳を腸にあげることで、病気（特に目と肺）が減らせる

ドナーミルクの効果

- くすり（免疫力向上効果）→疾病予防、長期予後の改善
- 静脈栄養期間の短縮・入院期間の短縮→医療費削減、家族の負担減

（参考）

「もし、十分な支援によっても自母乳が得られない、児に与えられない場合にはドナーミルクを用いる」（「早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言」2019年7月 日本小児科学会）

なぜ母乳バンクが必要か？②

厚生労働省「人口動態統計」	1980年	2019年
出生数	約158万人	約87万人
極低出生体重児(1500g未満)	5972人	6467人

- 母乳バンクが対象としている極低出生体重児は年間約**6,500人**産まれる
- そのうち、理想的とされる生後24時間以内に経腸栄養を始めるのに母親以外の母乳を必要としている赤ちゃんは推計約**5,000人**

※早産で体調が整わない、死去、抗がん剤治療、感染症の隔離等様々な理由

⇒**母親から母乳を得られない5,000人の赤ちゃんにドナーミルクが必要**

世界における母乳バンク

- 1909年 最初の母乳バンクがウィーンで誕生
- 1919年 アメリカ最初のバンク設立（ボストン）
- 1985年 北米母乳バンク協会設立
- 2010年 欧州母乳バンク協会設立（ミラノ）

【2022年現在、66か国・750施設以上】



北米(31)



欧州(281)



<https://www.internationalmilkbanking.org/index/worldbanks/>

日本における母乳バンクの歩み

日本では**日本財団母乳バンク**と**日本母乳バンク協会**の2つの法人が「**日本橋母乳バンク**」、「**日本財団母乳バンク**」・「**藤田医科大学病院日本財団母乳バンク**」の3つの母乳バンク拠点を運営。

- 2013年6月 昭和大学医学部小児科学教室にて、母乳バンク準備室開設
- 2014年4月 厚生労働省研究班【分担研究 母乳バンクの安全な運用】（～2017年3月）
- 2014年7月 「昭和大学江東豊洲病院母乳バンク室」開設
- 2017年5月 一般社団法人日本母乳バンク協会設立
- 2019年7月 日本小児科学会提言
- 2020年4月 厚生労働省研究班「ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究」（～2023年3月）
- 2020年9月 「**日本橋母乳バンク**」（運営：日本母乳バンク協会）開設
- 2021年3月 昭和大学江東豊洲病院母乳バンク室閉室
- 2021年4月 一般財団法人日本財団母乳バンク設立
- 2022年4月 「**日本財団母乳バンク**」（運営：日本財団母乳バンク）開設
- 2023年4月 こども家庭庁研究班「ドナーミルクを必要とする児に普及するために必要なエビデンスを構築するための研究」（～2026年3月）
- 2023年6月 「**藤田医科大学病院日本財団母乳バンク**」（運営：日本財団母乳バンク）開設

日本財団母乳バンクの特徴



ドナーミルクの安定供給

国内最大規模の母乳バンク室（82.1㎡）のクリーンルームでドナーミルクの低温殺菌処理および冷凍保管を行い、ドナーミルクを安定的に提供できる体制を構築します。



日本財団母乳バンクの特徴



ドナーミルクの安全性と 効果の調査研究

早産児・極低出生体重児の成長を促すドナーミルクの栄養価や生理活性物質量を測定分析することで、オーダーメイドのドナーミルクを提供できる研究体制を構築します。



日本財団母乳バンクの特徴



母乳バンクに関する周知啓発

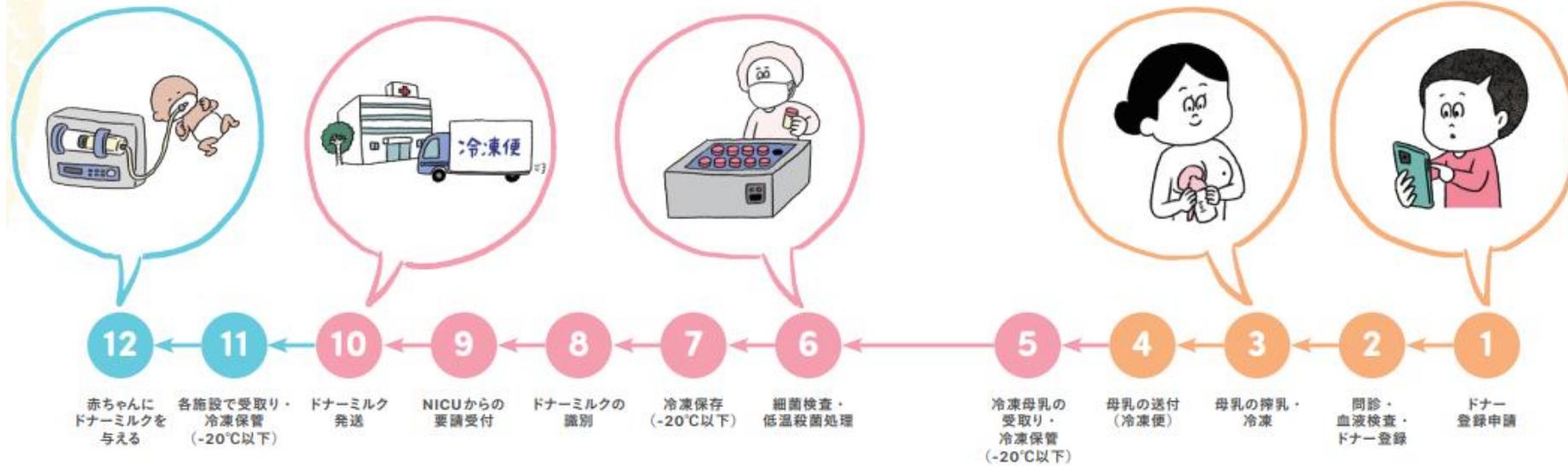
より多くの赤ちゃんの命を守るために、母乳バンクの活動をウェブサイトやイベントなどで発信、カンファレンスや学会の共催で研究成果も積極的に発表していきます。



ドナーミルクが赤ちゃんに届くまで

■NICU→赤ちゃん

11. ドナーミルクの受取り・冷凍保管(-20°C以下)
12. 保護者の承諾を得た赤ちゃんにドナーミルクを与える



■ドナー→日本財団母乳バンク

01. ドナー登録申請 (フォーム送信等)
02. ドナー登録施設での問診・血液検査→正式ドナー登録
03. 自宅での搾乳・冷凍
04. 母乳の送付 (冷凍便・日本財団母乳バンクへの着払)

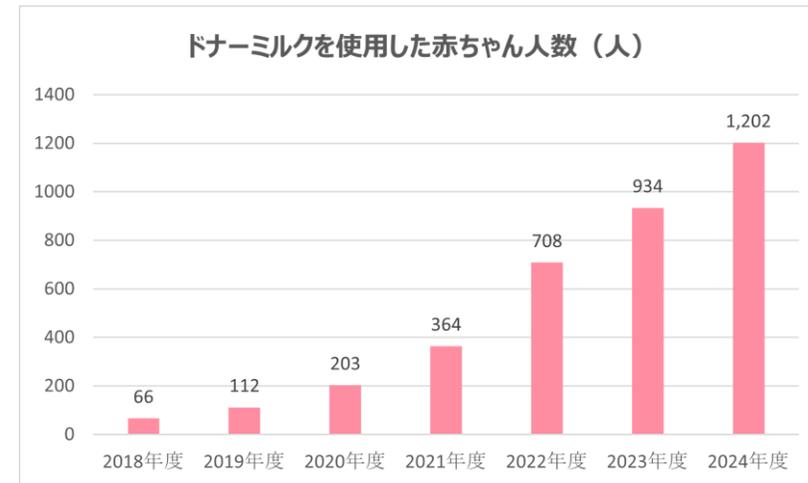
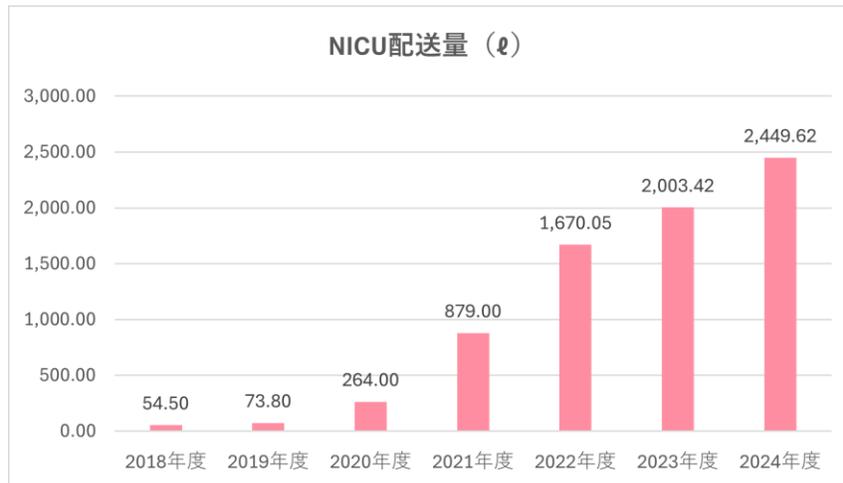
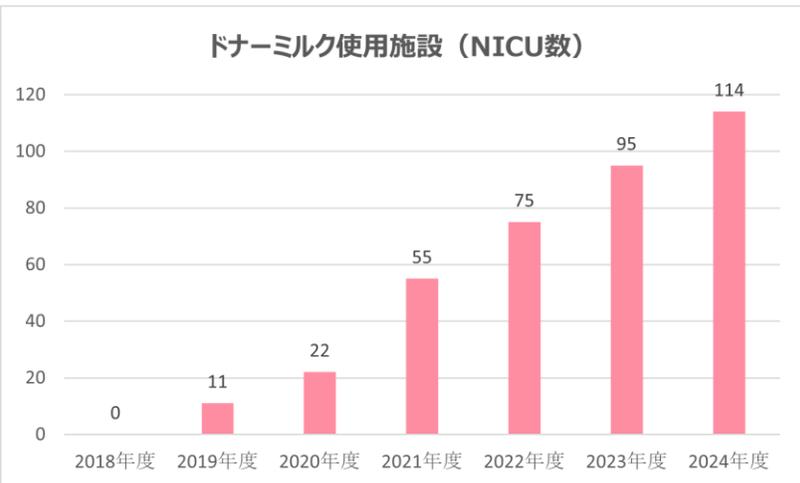
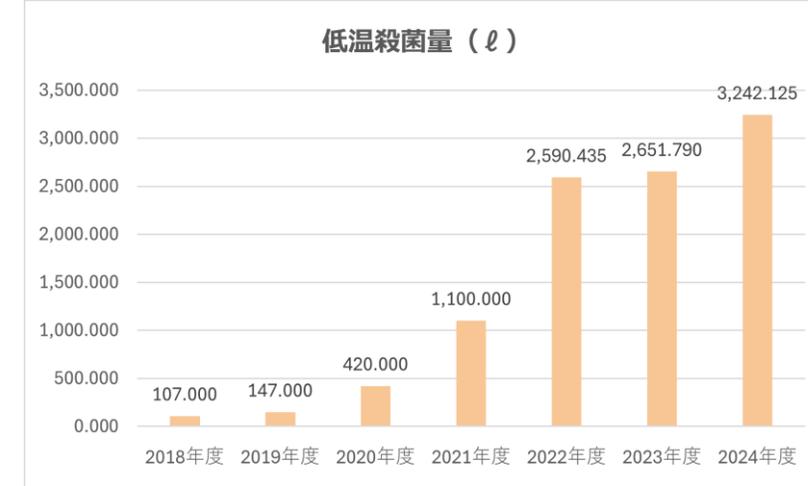
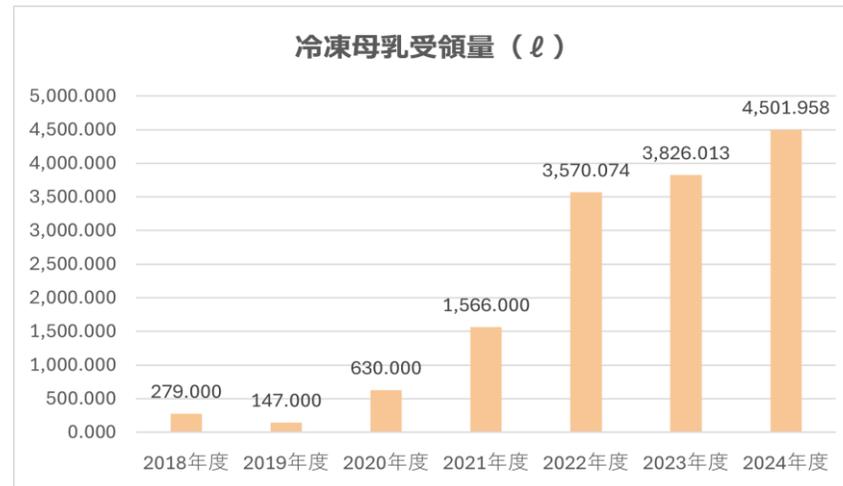
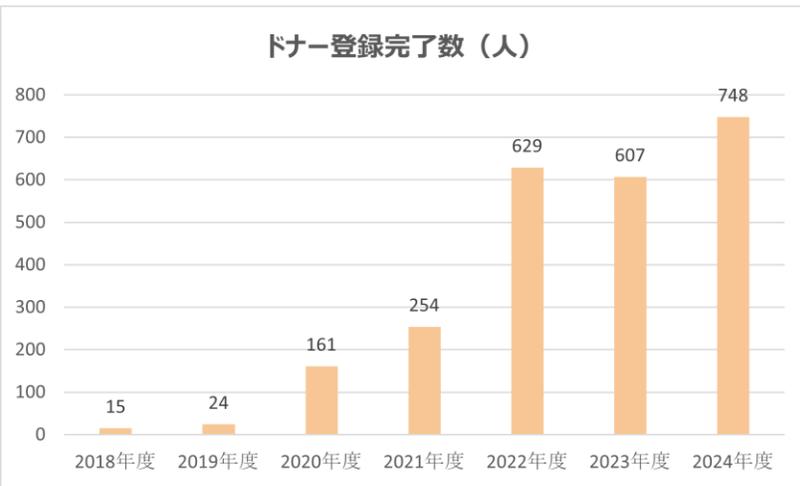
■日本財団母乳バンク→NICU

05. 冷凍母乳の受取り・冷凍保管(-20°C以下)
06. 事前細菌検査→低温殺菌処理→事後細菌検査
07. 冷凍保存 (-20°C以下※搾乳日から6カ月で廃棄)
08. ドナーミルクの識別
09. NICUからの要請受付
10. ドナーミルク発送 (冷凍便)

活動実績：2022.4.1～2024.3.31

活動データ	【2024年度】 2024年4月～2025年3月	【2023年度】 2023年4月～2024年3月	【2022年度】 2022年4月～2023年3月
ドナー登録申請数	648 人	555 人	925 人
ドナー登録完了数	456 人	356 人	436 人
冷凍母乳受領件数	1287 件	1016 件	997 件
冷凍母乳受領量	2543.555 ℓ	1840.013 ℓ	1714.497 ℓ
低温殺菌処理量	1758.440 ℓ	1325.790 ℓ	1133.520 ℓ
発送施設数	67 施設	49 施設	30 施設
発送量	1201.86 ℓ	822.42 ℓ	435.77 ℓ
提供赤ちゃん人数	518 人	314 人	141 人
ドナーミルク使用NICU数	67 施設	47 施設	21 施設
ドナー登録施設数	24 施設	18 施設	12 施設

(参考)国内2つの母乳バンクによる年度推移グラフ



[お問い合わせ]

一般財団法人日本財団母乳バンク

☎03-5931-3695 ✉info@milkbank.or.jp